



YAMAHA

デジタルミキシングコンソール

DM7
DM7 COMPACT

DM7 StageMixユーザーガイド

JA

目次

| | |
|------------------------------|-----------|
| はじめに | 4 |
| DM7 StageMixについて | 4 |
| ソフトウェアの動作環境 | 5 |
| 準備 | 6 |
| Wi-Fiの設定 | 6 |
| DM7シリーズのネットワーク設定 | 7 |
| iPadのWi-Fi設定 | 8 |
| DHCPを使う場合 | 8 |
| 固定IPアドレスを使う場合 | 9 |
| StageMixの設定 | 10 |
| 各部の名称と機能 | 12 |
| HOME画面 | 12 |
| HOME画面について | 12 |
| FADER MODE | 16 |
| SCENE画面 | 24 |
| UTILITY画面 | 26 |
| UTILITY画面について | 26 |
| CONNECT画面 | 27 |
| MUTE/TEMPO画面 | 29 |
| OSCILLATOR画面 | 30 |
| CUSTOM FADER BANK画面 | 32 |
| USER DEFINED BUTTONS画面 | 34 |
| PREFERENCE画面 | 36 |
| ABOUT 画面 | 39 |

目次

| | |
|----------------------------|-----------|
| SELECTED CH表示 | 40 |
| SELECTED CH表示について | 40 |
| EQ画面 | 41 |
| DYN画面 | 44 |
| INSERT画面 | 48 |
| DELAY画面 | 51 |
| CH NAME画面 | 52 |
| RACK画面 | 54 |
| 困ったときは | 55 |
| 困ったときは | 55 |

はじめに

DM7 StageMixについて

DM7 StageMixは、DM7シリーズをワイヤレスコントロールするiPadアプリケーションです。

DM7 StageMixを使用すれば、ミキシングエンジニアはステージ上で演奏者のポジションなど、DM7シリーズから離れたところで直接ミキシングパラメーターを操作できるようになります。iPadならではのシンプルかつ直感的な操作性によってセットアップの時間が短縮され、DM7シリーズのライブサウンドセッティングがさらに快適なものとなります。

ご注意

- ・このソフトウェアおよび取扱説明書の著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- ・このソフトウェアおよび取扱説明書の一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- ・このソフトウェアおよび取扱説明書を運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・市販の音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- ・この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- ・アプリケーションのバージョンアップなどに伴うシステムソフトウェアおよび一部の機能や仕様の変更については、別紙または別冊で対応させていただきます。
- ・Apple、Appleロゴ、およびiPadは、米国および他の国におけるApple Inc.の登録商標です。
- ・IOSは、米国およびその他の国におけるCisco社の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- ・その他、本書に記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

ソフトウェアの動作環境

DM7 StageMixの動作環境について説明します。

- Apple社iPad5世代以降
- 対応OS: iPadOS
- ヤマハ デジタルミキシングコンソール DM7シリーズ V1.0 以降
- Wi-Fiアクセスポイント
- イーサネットケーブル (DM7シリーズ～Wi-Fiアクセスポイント間接続用)

準備

Wi-Fiの設定

各機器の取扱説明書に従って、Wi-Fiアクセスポイントを設定してください。特別な設定は必要ありませんが、外部からネットワークへの侵入を防ぐためにWPAのようなセキュリティ設定をおすすめします。

DM7シリーズのネットワーク設定

- 1** イーサネットケーブルを使ってDM7シリーズのネットワークポートとWi-Fiアクセスポイントを接続します。
AUTO-MDIX機能のない古いアクセスポイントに接続するときは、クロスケーブルが必要になります。最近の機器の多くはAUTO-MDIX機能をサポートしていますので、その場合はストレートケーブル、クロスケーブルいずれも使用できます。
- 2** イーサネットケーブルがWi-Fi機器のLANポートに接続されていることを確認してください。
(WANポートには接続しないでください)
- 3** DM7シリーズのSETUP画面を開きます。
- 4** CONSOLE STATUSフィールドのNETWORKポップアップボタンをタッチしてNETWORK画面を開きます。
- 5** For Mixer Controlタブで、Wi-FiアクセスポイントのIPアドレスのセグメント内でIPアドレスを設定します。

接続方法の切り替え

ワイヤレス接続のほかに有線LANでも接続できます。有線で接続する場合は、Lightning-USB 3カメラアダプターとUSB Ethernetアダプターが別途必要です。また、接続の切り替えはオフライン状態で行なってください。

iPadのWi-Fi設定

DHCPを使う場合

DHCP（ダイナミックホストコンフィギュレーションプロトコル）とは、サーバーが機器にIPアドレスを自動的に割り当てるネットワークプロトコルのことです。以下の手順に従って、DHCPを使ったiPadの設定を行なってください。

- 1** iPadで設定メニューを開きます。
- 2** WI-Fiを選択し、次に正しいネットワークを選択します。
- 3** 現在選択されているネットワークの右側にある青いマークをタップして、IPアドレスを編集するための画面を表示させます。
- 4** [DHCP]を選択して、iPadがIP Address（IPアドレス）、Subnet Mask（サブネットマスク）、Router（ルーター）、DNSのデータを受信したことを確認します。
- 5** データが反映されない場合は、[Renew Lease]（DHCPリースを更新）を選択します。
- 6** 設定が完了したら、iPadのホームボタンを押して、[設定]メニューを終了します。

お知らせ

- AUTO(「CONNECT画面」(27ページ))で接続する場合、IPアドレスについてはDM7シリーズと同じサブネットが設定されているかを確認してください。
- 上記の手順5.を行なってもDHCPの設定が適用されない場合は、お使いのDHCPサーバーの設定を確認してください。または、固定IPアドレスを使って iPadの設定を行なってください。

固定IPアドレスを使う場合

- 1** iPadで設定メニューを開きます。
- 2** Wi-Fiを選択し、次に正しいネットワークを選択します。
- 3** 現在選択されているネットワークの右側にある青いマークを押し、IPアドレスを編集するための画面を表示させます。
- 4** [静的](Static)を選択します。
- 5** IPアドレスを設定します。 AUTO(「CONNECT画面」(27ページ))で接続する場合は、DM7シリーズのIPアドレスの第4オクテットのみを変えたIPアドレスを入力します。
(例: DM7シリーズのIPアドレスが「192.168.0.128」の場合、iPadには「192.168.0.127」のように入力します。)
- 6** Subnet Mask (サブネットマスク) : 「255.255.255.0」を入力します。
- 7** Router (ルーター) : Wi-FiアクセスポイントのIPアドレスを入力します。
通常、Wi-Fi機器本体底面または取扱説明書に印刷されています。
- 8** DNS: Wi-FiアクセスポイントのIPアドレスを入力します。(手順7.と同様)
- 9** iPadのホームボタンを押して、設定メニューを終了します。

StageMixの設定

StageMixを起動します。



SELECT MIXER画面が表示されます。この画面では以下のようなことができます。

- ・オフラインデモモードに入り、StageMixの機能やユーザーインターフェースを試すことができます。
- ・ネットワーク内にあるDM7シリーズを選択し、StageMixを開始します。

オフラインデモモード

SELECT MIXER画面でOFFLINEボタンを押すことで、DM7シリーズとStageMixが接続されていない（オフライン）状態でも、アプリケーションの使い方を確認できます。ただし、このモードではレベルメーターや多くのシーンメモリー機能は動作しません。

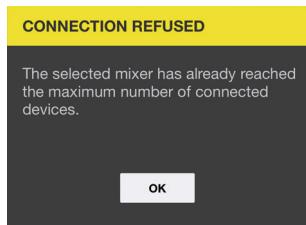
ミキサーの選択と動作の開始

お使いのiPadがDM7シリーズと連動するように設定されたら、リストからシステムを選択して[CONNECT]ボタンを押します。

準備 > StageMixの設定



DM7シリーズに接続されているStageMixがコンソールあたりの最大数(2台)に達している場合は、IP Addressの左横に禁止マークが表示されます。また、禁止マークが表示されているDM7シリーズを選んで[CONNECT]ボタンを押すと、接続できなかったことを示すメッセージが表示されます。



StageMixがDM7シリーズからパラメーター情報を取得する処理が終わると、StageMixの準備が完了します。StageMixがDM7シリーズと接続できない場合は、このユーザーガイドの巻末にある「困ったときは」をご参照ください。

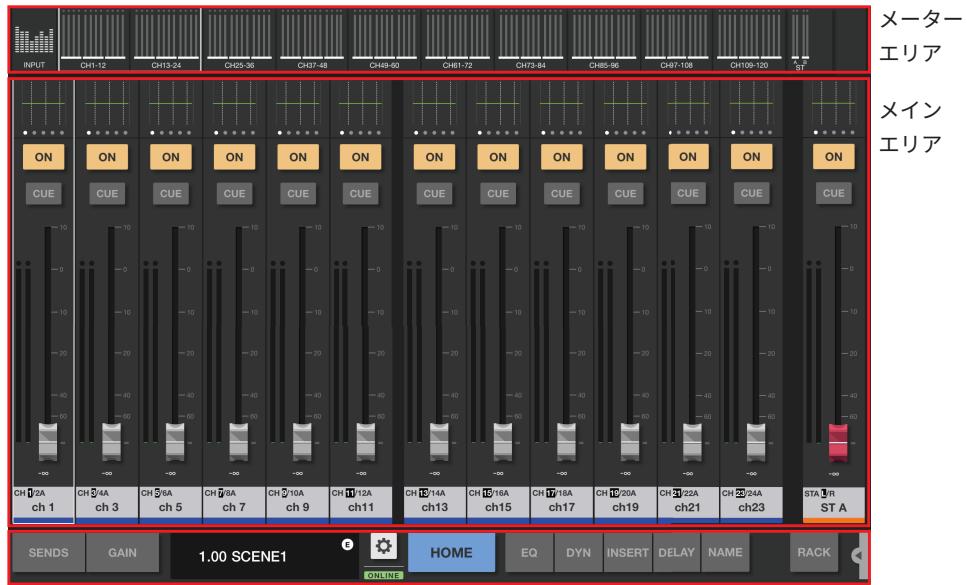
各部の名称と機能

HOME画面

HOME画面について

StageMixのメイン画面です。起動時はこの画面が表示されます。

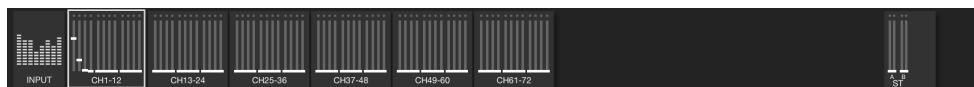
ツールバーエリアにある[HOME]ボタンをタップしたときも、この画面に戻ります。



メーターエリア

インプットレベル、アウトプットレベル、フェーダーレベルのほか、SENGS ON FADERモードのときはセンドレベルを一覧表示します。メーターエリアには、INPUTモードとOUTPUTモード、CUSTOMモードがあります。メーターエリアを上にスワイプすると、モードが順に切り替わります。最初に起動したときはINPUTモードになっています。次回からは前回終了したときのモードで起動します。

INPUTモード



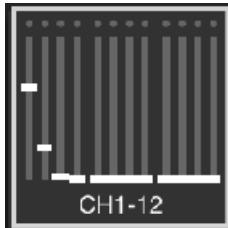
OUTPUTモード



CUSTOMモード



各モードでは12チャンネルごとのブロックに分かれています。INPUTモードとOUTPUTモードでは右端にSTEREO OUT、CUE A、CUE Bが表示され、CUSTOMモードではユーザーがアサインしたチャンネルが表示されます。CUE A/BはCUEがオンのときだけ表示されます。CUE A/BをタップするとCUEがクリアされ非表示になります。レベルメーターの表示色は、-18dB未満までは緑色、0dBまでは黄色、それ以上は赤色です。メーターポイントはPREFERENCE画面の「Meter Point」で設定します。ただし、DCAはPost On固定です。各チャンネルのフェーダーレベルが白線で表示されます。ノミナル(0dB)のときは、太い白線になります。チャンネルがオフの場合は、メーターの背景が黒色になり、メーター自体も灰色で表示されます。



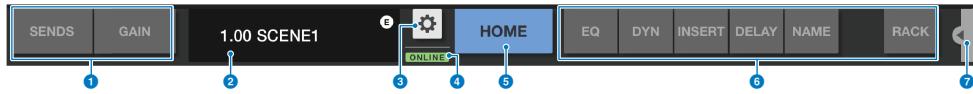
メインエリアに表示されているチャンネルが、白枠で囲まれて表示されます。この白枠を左右にドラッグする、またはタップして、メインエリアに表示するチャンネルを切り替えできます。タップしたときは、12チャンネルのグループごとにメインエリアの表示が切り替わります。SELECTED CH画面が表示されているときは、選択しているチャンネルだけが白枠で囲まれます。選択しているチャンネルを切り替えると、白枠も同時に移動します。SENDS ON FADERモードのときは、各チャンネルのセンドレベルが表示されます。このとき、フェーダーレベルを示す線は、送り先のチャンネルカラーで表示されます。メーターエリアを下にドラッグすると、Full Screenモードになります。

メインエリア

メインエリアには、ツールバーエリアで選択した内容が表示されます。それぞれの画面について、ツールバーエリアの各ボタンの説明でご紹介します。

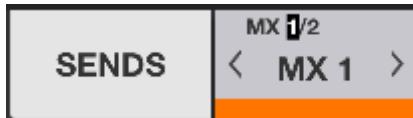
ツールバーエリア

HOMEの画面の下側に常に表示されます。



① FADER MODE切り替えボタン

HOME画面のメインエリアに表示するFADER表示のモードを切り替えます。どのモードも選択されていないときはNORMALモードになります。 SENDSを選択したときは、SEND先のチャンネルID、ネーム、アイコン、カラーがボタンの右側に表示されます。



SEND先表示をタップすると、SEND先一覧画面が表示され、SEND先を変更できます。 SENDSボタンは、長押しすると操作対象をSENDレベルかSENDパンかを切り替えできます。 GAINボタンは、長押しすると操作対象をアナログゲインかデジタルゲインかを切り替えできます。

② SCENE表示

現在選択されているシーンの番号と名前が表示されます。現在展開されているシーンとは異なるシーンが選択されているときは、シーン番号が点滅します。タップするとSCENE画面が表示されます。 SCENE画面が表示されている状態でタップすると、SCENE画面が閉じます。 リコード後にパラメーターを変更すると、Editマークが右上に表示されます。

③ UTILITYボタン

タップするとUTILITY画面が表示されます。

④ ONLINEインジケーター

オンラインのときに点灯します。

⑤ HOMEボタン

タップするとHOME画面に戻ります。 FADER MODEが切り替わっているときは、選択されているFADER MODEのままHOME画面が開きます。

⑥ ツールボタン

各ボタンをタップして、メインエリアに表示する画面を切り替えます。表示中のボタンが点灯します。 INSERTボタンをタップすると、選択チャンネルにインサートされているプラグイン、FX、GEQ/PEQのボタンが表示されます。インサートされていない場合はボタンが表示されません。

⑦ メニューボタン

タップすると、各画面で用意されているコンテキストメニューが表示されます。メニューの詳細は、各画面の説明をご参照ください。

HOME画面のメニュー

HOME画面では、次のコンテキストメニューが用意されています。

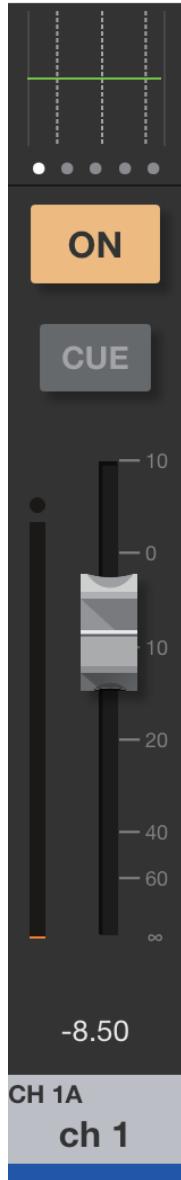
- **CH Copy**：選択しているチャンネルの設定をコピーバッファーに格納します。

各部の名称と機能 > HOME画面

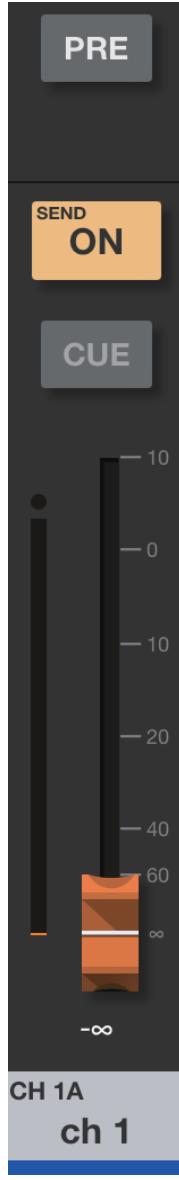
- **CH Paste** : 選択しているチャンネルに、コピーバッファーに格納されているチャンネルの設定をペーストします。
- **CH Default** : 選択しているチャンネルの設定を初期化します。

FADER MODE

ツールバーエリアのFADER MODEボタンで、FADER表示をNORMAL、SENDS(SENS ON FADER)、GAINの3つから切り替えます。起動時はNORMALになっています。



NORMAL



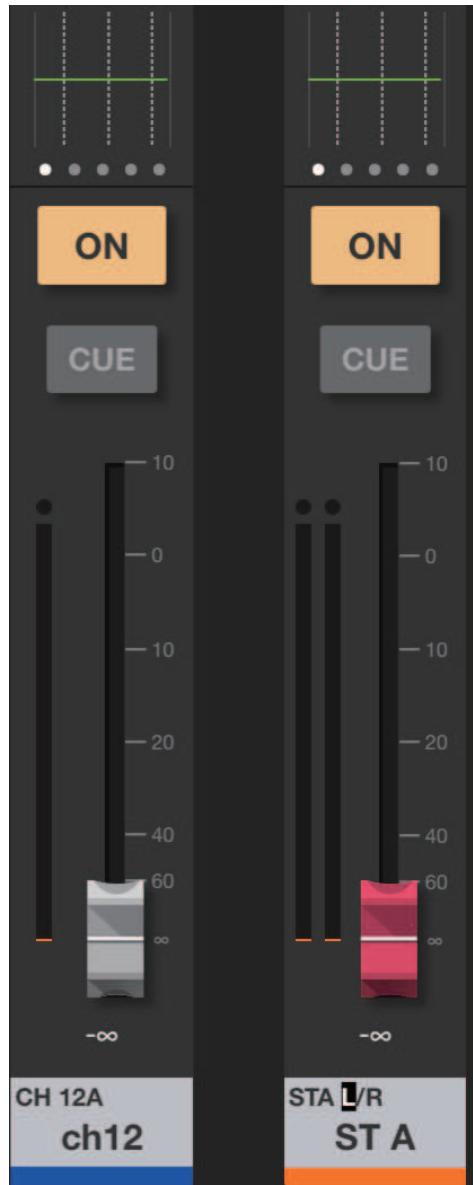
SENDS



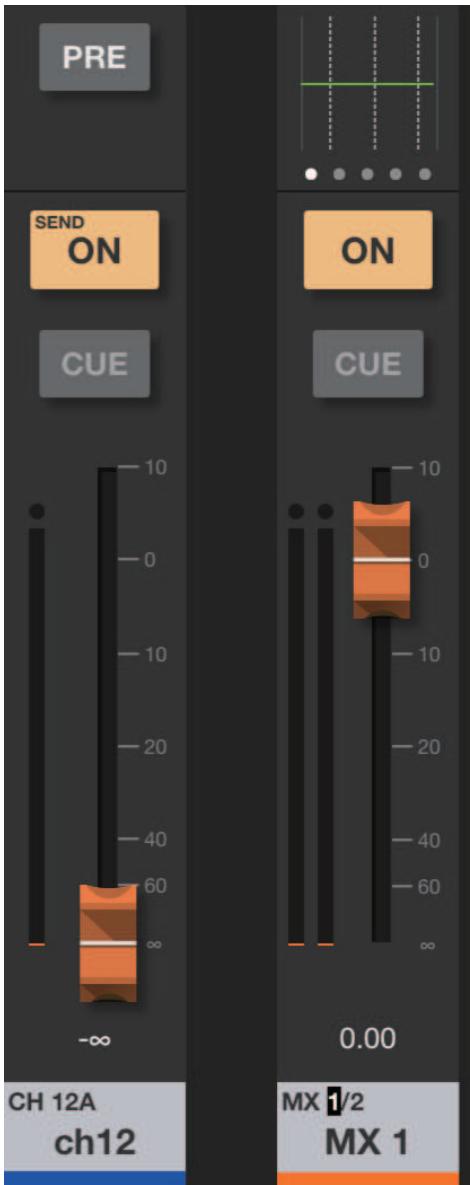
GAIN

FADER表示がNORMAL、GAINのときは、メインエリアの右端にステレオチャンネルが表示されます。この部分を左右にスワイプすると、STAとST Bとで表示を切り替えできます。FADER表示がSENDSのときは、メインエリアの右端にSEND先のアウトプットチャンネルが表示されます。

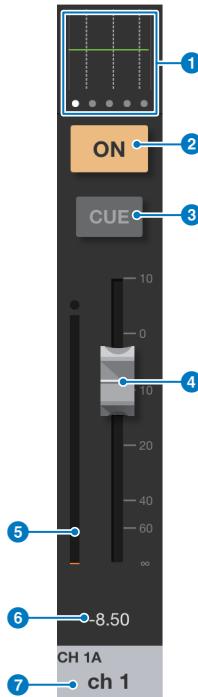
NORMAL、GAIN選択時



SENDS選択時

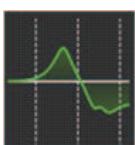


NORMAL



① プロセッシングエリア

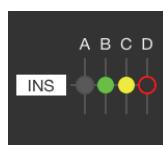
EQ、DYN、INSERT、DELAY、PANを表示します。EQ、DYN、INSERT、DELAYの場合は、タップするとSELECTED CH画面の各パラメーターを操作する画面に移動します。



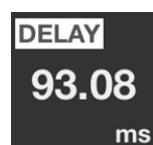
EQ



DYN

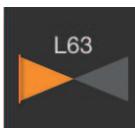


INSERT



DELAY

PANの場合は、PANの値をドラッグして変更します。



② **ONボタン**

チャンネルのオン/オフを切り替えます。オンのときはボタンが点灯します。オンのときに、このチャンネルを含むミュートグループがオンになると点滅します。また、このチャンネルを含むDCAグループがオフになると点滅します。

③ **CUEボタン**

タップして、チャンネルのCUEのオン/オフを切り替えます。オンのときは点灯します。操作するCUEは、PREFERENCE画面の「Cue Operation Mode」で設定します。ソロインプレイスモードのときはSOLOボタンになり、オンにすると赤色で点灯します。

④ **フェーダー**

フェーダーのノブを上下にドラッグしてフェーダーレベルを調節します。ノミナル値（0dB）で一度止まり、さらにドラッグすると継続してフェーダー値を変更できます。左右にドラッグしてから上下にドラッグすると、細かい分解能で調節できます。複数のフェーダーを同時に操作できます。

⑤ **メーター表示**

ステレオペアを設定しているチャンネルでは2本表示されます。

⑥ **フェーダー値**

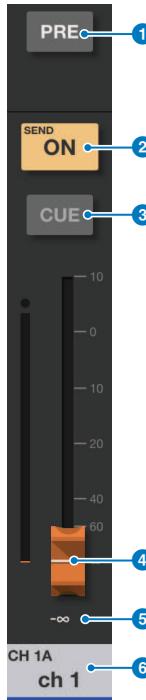
現在のフェーダー値を表示します。数値をタップすると上下矢印ボタンが表示され、値の増減ができます。



⑦ **チャンネルネームエリア**

チャンネルのID、名前、アイコン、カラーを表示します。ステレオペアを設定しているチャンネルでは、タップすると表示チャンネルが切り替わります。ダブルタップするとCH NAME画面が開きます。

SENDS (SENDS ON FADER)



① PREボタン

Pre FaderかPost Faderかを切り替えます。オンのときは点灯します。

- ・ オン : Pre Fader
- ・ オフ : Post Fader

長押しすると、以下のメニューが表示されます。各項目から選択すると確認メッセージを表示し、OKボタンをタップすると一括でPre/Postを設定できます。

All Mix/Matrix busses PRE for this channel

All Mix/Matrix busses POST for this channel

Current Mix/Matrix bus PRE for all channels

Current Mix/Matrix bus POST for all channels

② SEND ONボタン

送り先に選択したチャンネルへのSENDのオン/オフを切り替えます。オンのときは点灯します。

③ CUEボタン

タップして、チャンネルのCUEのオン/オフを切り替えます。オンのときは点灯します。操作するCUEは、PREFERENCE画面の「Cue Operation Mode」で設定します。ソロインプレイスモードのときはSOLOボタンになり、オンにすると赤色で点灯します。

④ フェーダー

送り先に選択したチャンネルへのSENDレベルまたはSENDパンを調整します。

⑤ SENDレベル値

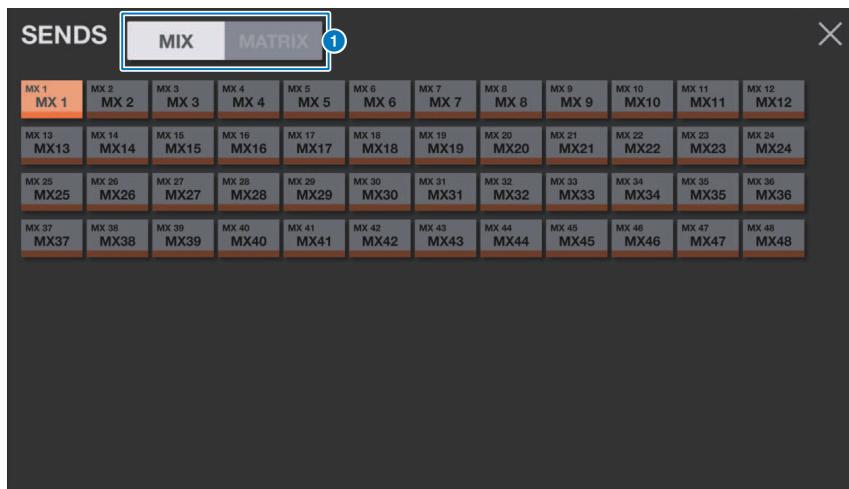
現在のSENDレベル値またはSENDパン値を表示します。数値をタップすると上下矢印ボタンが表示され、値の増減ができます。

⑥ チャンネルネームエリア

チャンネルのID、名前、アイコン、カラーを表示します。

SEND先一覧画面

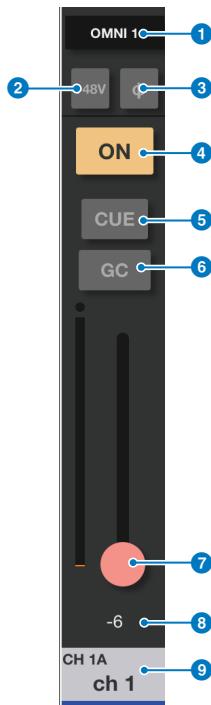
FADER MODE切り替えボタンのSEND先表示をタップすると表示されます。



⑧ MIX/MATRIX切り替えボタン

SEND先一覧を切り替えます。現在選択されているチャンネルのボタンが点灯します。ステレオペアになっているチャンネルは白枠で囲われて表示されます。

GAIN



① インプットアサインエリア

割り当てられているポート名が表示されます。タップするとINPUT PATCH画面が表示されます。

② +48Vボタン

アナログ入力端子に供給するファンタム電源 (+48V) のオン/オフを切り替えます。

- ・ オン：ファンタム電源をオンにします。
- ・ オフ：ファンタム電源をオフにします。

PREFERENCE画面で「Enable Phantom Power Switching」がオフのときは、無効になります。アナログゲインを持つI/Oカードなどにパッチされていないときは非表示になります。

③ Φ (フェイズ) ボタン

デジタルゲインへの入力信号の位相を切り替えます。オンにすると、入力される信号の位相を反転します。

④ ONボタン

チャンネルのオン/オフを切り替えます。オンのときはボタンが点灯します。

⑤ **CUEボタン**

タップして、チャンネルのCUEのオン/オフを切り替えます。オンのときは点灯します。操作するCUEは、PREFERENCE画面の「Cue Operation Mode」で設定します。ソロインプレイスモードのときはSOLOボタンになります。オンにすると赤色で点灯します。

⑥ **GCボタン**

チャンネルのゲインコンペンセーション機能がオンになっている場合のアナログゲインで表示されます。タップしてオンにすると、オンにしたときのゲインレベルの位置に△マークが表示されます。オフにすると、ゲインレベルが△マークの値に戻ります。

⑦ **スライダー**

ゲインレベルを調整します。アナログゲインのときは赤色に、デジタルゲインのときは白色になります。アナログゲインを持つI/Oカードなどにパッチされていないときは、スライダーが表示されません。

⑧ **ゲイン値**

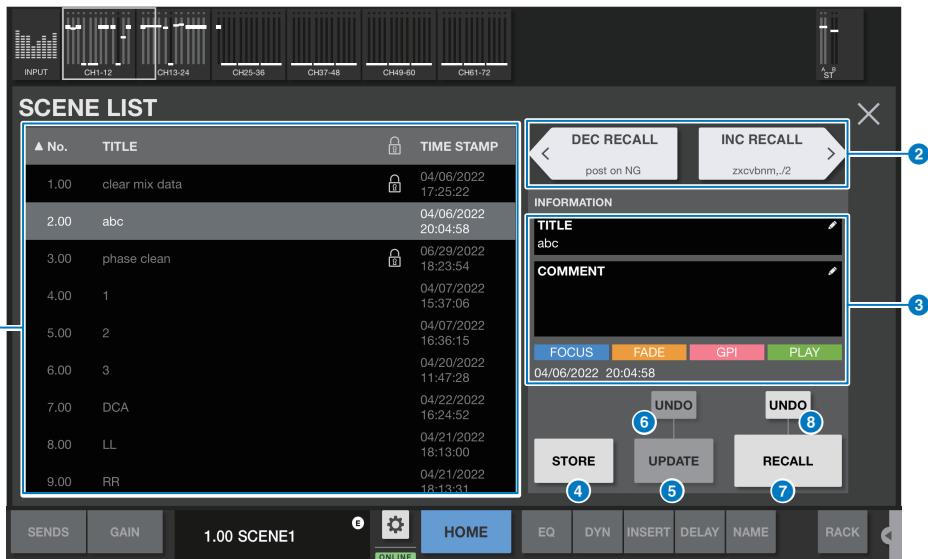
ゲイン値を表示します。

⑨ **チャンネルネームエリア**

チャンネルのID、名前、アイコン、カラーを表示します。

SCENE画面

ツールバーエリアのSCENE表示をタップするとSCENE画面が表示されます。



① シーンリスト

保存されたシーンをリスト表示します。

リストの項目名をタップすると、タップした項目の内容でソートします。

シーンをタップすると選択できます。選択したシーンはハイライト表示になり、呼び出しの対象になります。

現在呼び出しているシーンには、オレンジ色の三角マークが付きます。

鍵アイコンがついているシーンは編集できません。

② DEC RECALLボタン/INC RECALLボタン

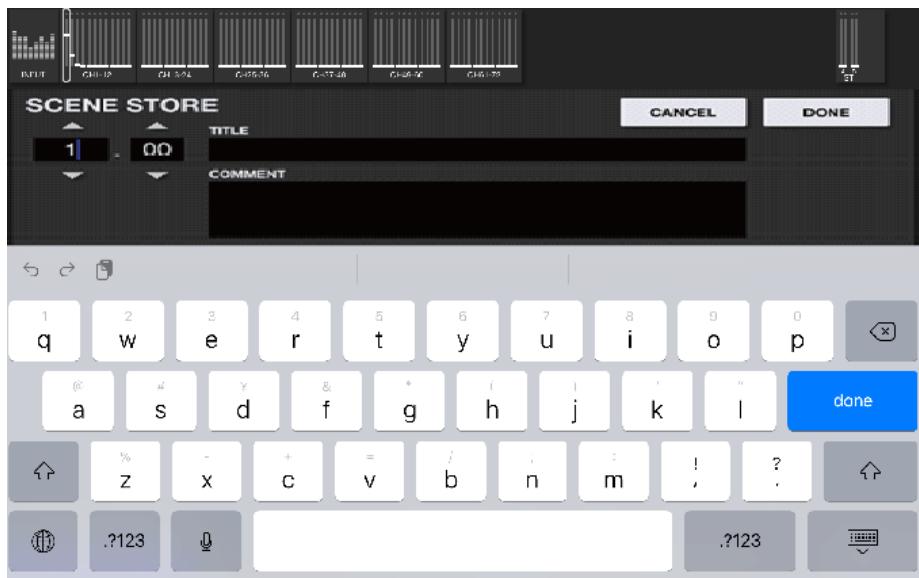
シーンを順番にリコールします。

③ INFORMATIONエリア

シーンリストで選択しているシーンのタイトル、コメント、ステータス、タイムスタンプを表示します。タイトルとコメントは、表示されている欄をタップするとキーボード画面が表示され編集できます。

④ STOREボタン

シーンを保存します。タップするとキーボード画面が表示されます。



No.欄は、数字での入力のほか、上下の三角ボタンで増減ができます。TITLE欄とCOMMENT欄はASCII表示文字のみに対応しており、TITLE欄に最大16文字、COMMENT欄に最大128文字入力できます。CANCELボタンをタップすると、シーンを保存せずに元の画面に戻ります。DONEボタンをタップすると、シーンが保存されます。

⑤ UPDATEボタン

パラメーターの編集をしたときにカレントシーンに上書き保存をします。カレントシーンがない場合や、カレントシーンがロックされている場合は無効となります。

⑥ UNDO UPDATEボタン

直前に行なったUPDATE操作を取り消します。カレントシーンがない場合や、カレントシーンがロックされている場合は無効となります。

⑦ RECALLボタン

選択しているシーンをリコールします。

⑧ UNDO RECALLボタン

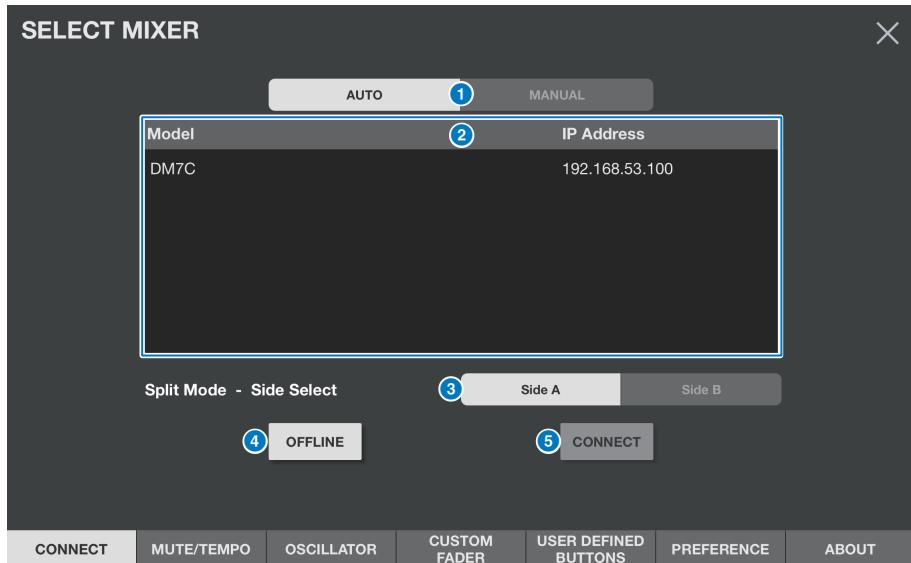
直前に行なったリコール操作を取り消します。

UTILITY画面

UTILITY画面について

画面の下に、CONNECT、MUTE/TEMPO、OSCILLATOR、CUSTOM FADER、USER DEFINED BUTTONS、PREFERENCE、ABOUTタブボタンが用意されています。

CONNECT画面



この画面に含まれる項目は以下のとおりです。

① AUTO/MANUAL 切り替えボタン

接続先のDM7シリーズを自動検出するか、IP Addressを手動で設定するかを切り替えます。

AUTO : 自動で検出します。

MANUAL : IP Address を手動で設定します。

DM7シリーズが異なるサブネット上にあっても接続できますが、レベルメーター情報は表示できなくなります。

② デバイスリスト

ネットワーク上に見つかったDM7シリーズをリストで表示します。接続したいDM7シリーズをタップして選択するとハイライト表示になります。 DM7シリーズに接続されているStageMixがすでに最大数(合計2台)に達している場合は、IP Addressの左横に禁止マークが表示され、接続できません。

③ Split Mode

スプリットモード時にA/Bサイドを選択します。

④ OFFLINEボタン

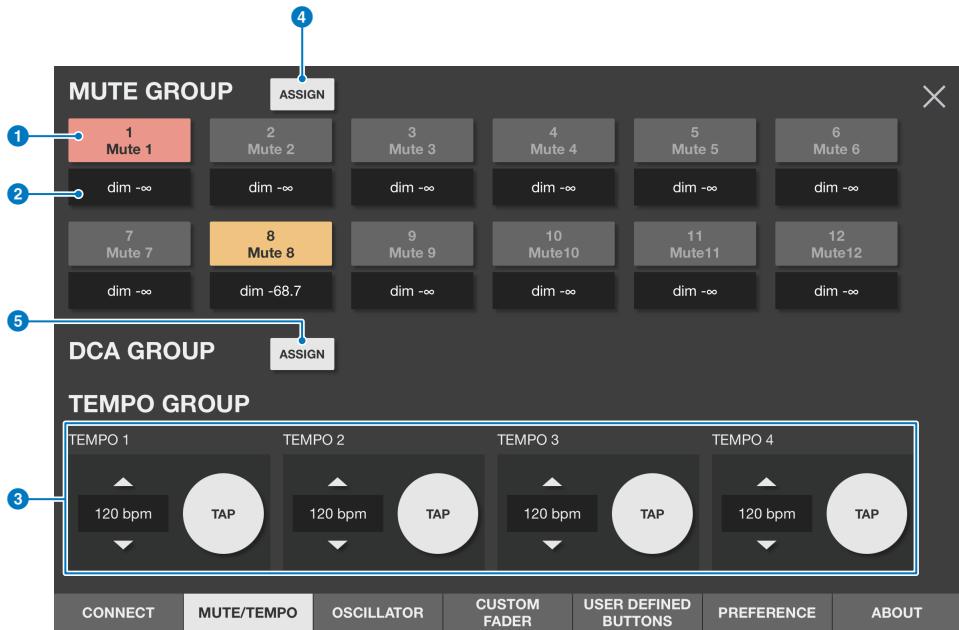
タップすると、オフラインデモモードに切り替わります。 StageMixとDM7シリーズが接続されているときは切断されます。

⑤ CONNECTボタン

タップすると、デバイスリストで選択したDM7シリーズと接続します。

MUTE/TEMPO画面

ミュートグループのオン/オフやタップテンポを設定します。



① ミュートグループボタン

12個のミュートグループのオン/オフを切り替えます。オンのときはボタンが点灯します。Dimの設定が $-\infty$ のときは赤色、それ以外のときはオレンジ色で点灯します。ボタンにはミュートグループのラベルが表示されます。ミュートグループのチャンネルアサインやラベルの編集はStageMix上ではできません。

② Dimボタン

ミュートグループのDimレベルを設定します。タップするとフェーダーのポップアップが表示されます。

③ TEMPO1～TEMPO4ボタン

ボタンをタップして、タップテンポを4種類設定できます。BPM値がボタンの横に表示されます。ボタン上で上下にドラッグすると、BPM値を増減できます。BPM値表示の上下にある三角ボタンをタップしてもBPM値を増減できます。

④ MUTE GROUP ASSIGNボタン

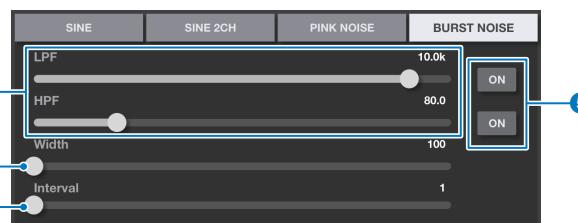
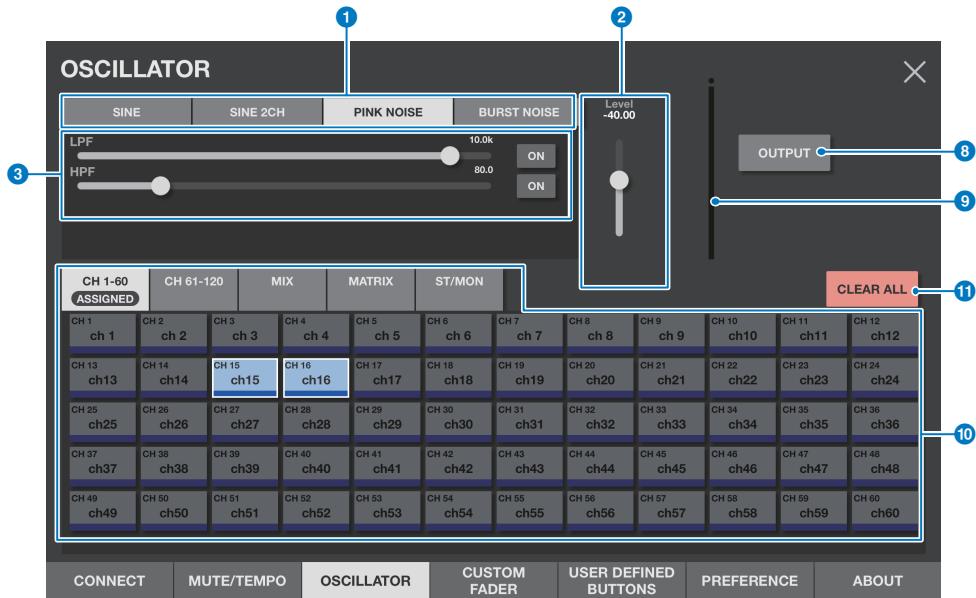
押すとミュートグループ設定画面が表示されます。

⑤ DCA GROUP ASSIGNボタン

押すとDCAグループ設定画面が表示されます。

OSCILLATOR画面

オシレーターの設定をします。



① MODEボタン

オシレーターの動作モードを選択します。

② LEVELスライダー

オシレーターの出力レベルを設定します。 MODEがSINE 2CHのときは、LとRの2本が表示されます。

③ FREQスライダー

オシレーターの周波数を設定します。 SINE、SINE 2CHのときに表示されます。

④ LPF/HPFスライダー

PINK NOISEとBURST NOISEのときに表示されます。オシレーターのローパスフィルターとハイパスフィルターのカットオフ周波数を設定します。

⑤ LPF ONボタン/HPF ONボタン

ローパスフィルターとハイパスフィルターのオン/オフを切り替えます。

⑥ Widthスライダー

BURST NOISEのときに表示されます。断続的に出力されるノイズ部分の長さを設定します。

⑦ Intervalスライダー

BURST NOISEのときに表示されます。ノイズとノイズの間の長さを設定します。

⑧ OUTPUTボタン

オシレーターのオン/オフを切り替えます。

⑨ OUTPUTレベルメーター

オシレーターの出力レベルを表示します。SINE 2CHの場合は、OddとEvenの2本のメーターを表示します。

⑩ ASSIGNボタン

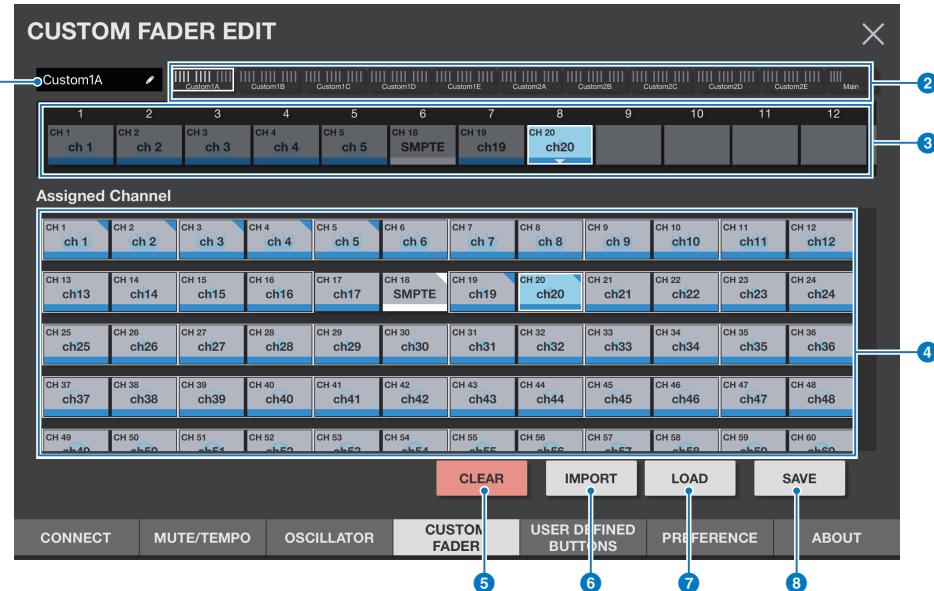
オシレーターの信号を送るチャンネルを選択します。上部のボタンでリストに表示するチャンネルを切り替え、リストのチャンネルをタップして選択します。ドラッグして複数チャンネルを同時に選択できます。

⑪ CLEAR ALLボタン

すべてのアウトプットチャンネルをオシレーターの信号の送り先から除外します。

CUSTOM FADER BANK画面

カスタムフェーダーバンクの割り当てをします。



① バンクネームエディット

タップすると、オーバービューエリアのバンクネームを編集できます。

② オーバービューエリア

割り当てを行なうフェーダーを一覧表示します。フェーダーボタンに表示されているフェーダーが、白枠で囲まれて表示されます。この白枠を左右にドラッグする、またはタップして、フェーダーボタンに表示するチャンネルを切り替えできます。

③ フェーダーボタン

バンクを割り当てるフェーダーを選択します。

④ チャンネルボタン

フェーダーボタンで選択したフェーダーに割り当てるチャンネルを選択します。すでに選択されているチャンネルの右上には三角マークが表示され、タップすると割り当てを解除します。横一列にドラッグすると、連続して割り当てができます。

⑤ CLEARボタン

フェーダーに対する割り当てを解除します。

⑥ IMPORTボタン

DM7シリーズのCUSTOM FADER BANKの設定を読み込みます。

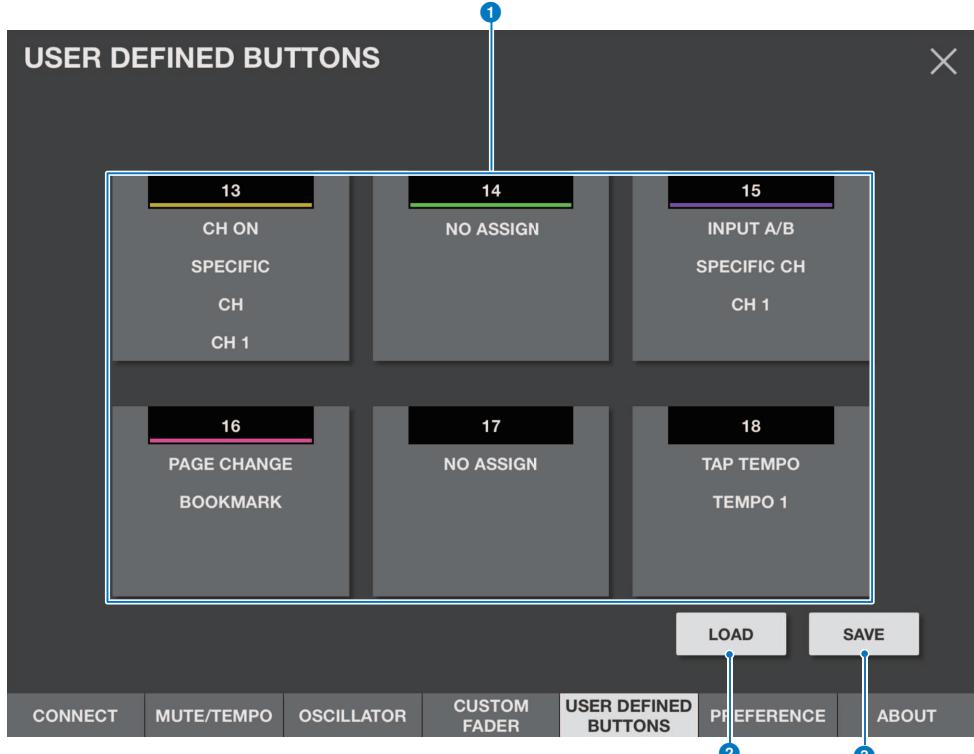
⑦ LOADボタン

タップすると、Load Fileビューが開き、ファイルからCUSTOM FADER BANKの設定を読み込みます。ファイルの削除、ファイル名の変更もできます。

⑧ SAVEボタン

タップすると、Save Fileビューが開き、CUSTOM FADER BANKの設定をファイルに保存します。

USER DEFINED BUTTONS画面



この画面に含まれる項目は以下のとおりです。

① BUTTONS設定ボタン

タップすると、USER DEFINED BUTTONSに割り当てる機能を選択する画面（機能選択画面）を表示します。

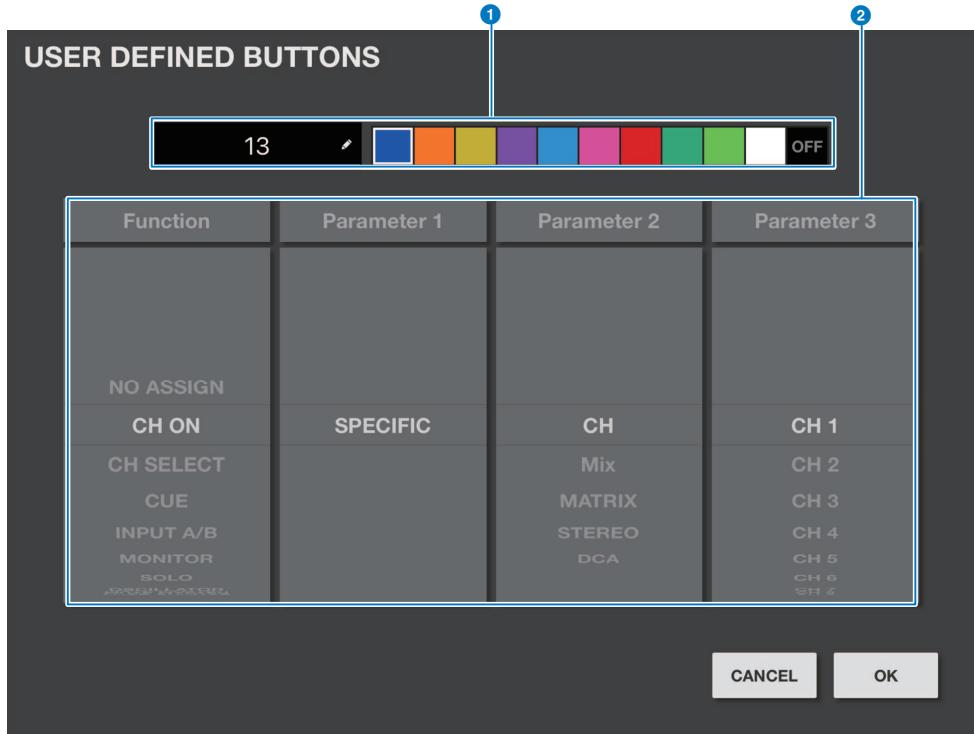
② LOADボタン

保存したUSER DEFINED BUTTONSの設定を読み込みます。

③ SAVEボタン

現在のUSER DEFINED BUTTONSの設定を保存します。

機能選択画面



① ラベル編集

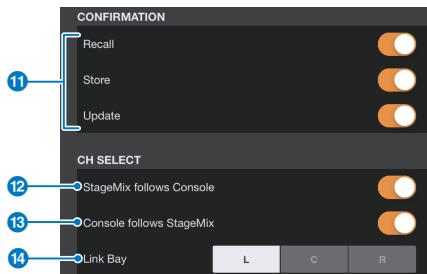
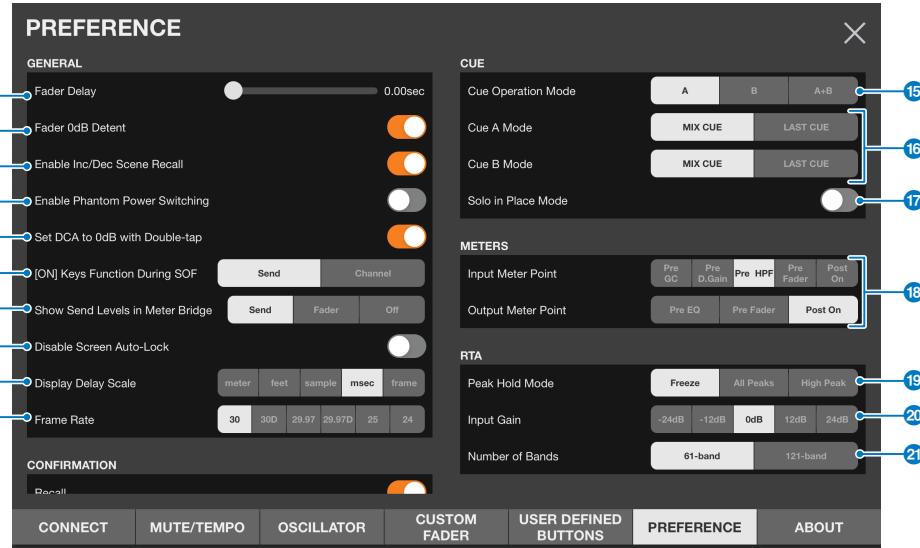
テキストボックスをタップすると、ラベル名をキーボードで入力できます。また、カラーが設定できます。

② 機能選択

USER DEFINED BUTTONSに割り当てる機能を選択します。

PREFERENCE画面

アプリケーション全体の設定をします。



GENERALエリア

① Fader Delay

フェーダーをタッチしてから実際にドラッグして動かせるようになるまでの時間を設定します。 フェーダーの値が意図せず動いてしまうのを防ぎます。

② Fader 0dB Detent

オンにすると、フェーダーやパンを操作したときに、0dBやセンター(C)で一度止まります。さらにドラッグすると継続して設定を変更できます。

③ Enable Inc/Dec Scene Recall

オフにすると、SCENE画面のINC RECALLボタン/DEC RECALLボタンを非表示にします。

④ **Enable Phantom Power Switching**

FADER表示のGAIN画面にある、ファンタム電源を供給する+48Vボタンを操作するかどうかを設定します。オンのときは赤色で表示されます。オフにすると、GAIN画面で+48Vボタンが操作できなくなります。

⑤ **Set DCA to 0dB with Double-tap**

オンにすると、DCAのフェーダーノブをダブルタップすると0dBに設定します。

⑥ **[ON] Keys Function During SOF**

SENDS ON FADERモードのときの[ON]キーの動作を、送り先に選択したチャンネルへのSENDのオン/オフを切り替えるSEND ON ボタンか、チャンネルのオン/オフを切り替えるCH ONボタンかを設定します。

⑦ **Show Send Levels in Meter Bridge**

SENDS ON FADERモードのときの表示を切り替えます。

Send： センドレベルがメーターエリアに表示されます。

Fader： フェーダーレベルがメーターエリアに表示されます。

Off： メーターエリアには表示されません。

⑧ **Disable Screen Auto-Lock**

オンにすると、iPadの画面自動ロック機能を無効にします。

⑨ **Display Delay Scale**

ディレイスケールを設定します。

⑩ **Frame Rate**

ディレイスケールをframeにしたとき、1秒当たりのフレーム数を設定します。

CONFIRMATIONエリア

⑪ **Recall/Store/Update**

オンにすると、SCENE画面でシーンをリコール/保存/上書き保存したときに確認メッセージを表示します。

CH SELECTエリア

⑫ **StageMix Follows Console**

オンにすると、StageMixのチャンネル選択がコンソールのチャンネル選択に従います。

⑬ **Console Follows StageMix**

オンにすると、コンソールのチャンネル選択がStageMixのチャンネル選択に従います。

⑯ **Link Bay Selected**

CHにリンクするBayをL,Cから選択します。CUSTOM FADER BANKのIMPORT機能でも選択したBayの設定を読み込みます。

お知らせ

DM7 Compactと接続時、この項目は表示されません。

CUEエリア

⑯ **Cue Operation Mode**

Cueの操作モードを切り替えます。Cue A、Cue B、Cue A+Bから選択します。

⑯ **Cue A Mode/Cue B Mode**

Cue A/Bのモードを設定します。Mix Cueモードでは複数のチャンネルを同時にモニターします。Last Cueモードではひとつのチャンネルだけモニターします。

⑯ **Solo in Place Mode**

オンになるとソロインプレイスモードが有効になります。

METERSエリア

⑯ **Input Meter Point/Output Meter Point**

メーターポイントを設定します。

RTAエリア

⑯ **Peak Hold Mode**

RTAで表示するピークホールドのタイプを選択します。

- **Freeze** : Holdボタンをオンにすると、そのときの値のままでRTAの表示を止めます。Holdボタンをオフにすると表示が更新されます。
- **All Peaks** : すべてのRTA周波数帯の最大値を赤色で表示します。
- **High Peak** : 最大値を測定した周波数帯を1か所だけ赤色で表示します。

⑯ **Input Gain**

RTAに使用するiPadのマイクのインプットゲインを選択します。

⑯ **Number of Bands**

RTAで表示する周波数のバンド数を選択します。

ABOUT 画面

アプリケーションのバージョン情報、接続しているコンソールのバージョン情報、アプリケーションで使用しているソフトウェアのライセンスを表示します。

ABOUT

VERSION INFORMATION

| | |
|--------------|-------|
| DM7 StageMix | 1.0.0 |
| DM7 | 1.0.0 |

(C) 2023 Yamaha Corporation

LICENSE

The MIT License (MIT)

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy
of this software and associated documentation files (the "Software"), to
deal
in the Software without restriction, including without limitation the rights
to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell
copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is
furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included
in
all copies or substantial portions of the Software.

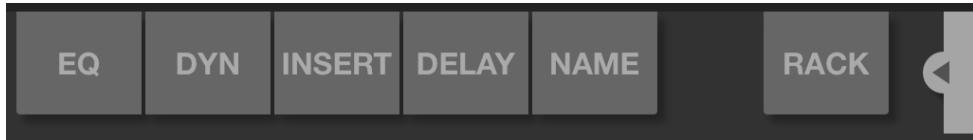
THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY
KIND, EXPRESS OR
IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF
MERCHANTABILITY,
FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN
NO EVENT SHALL THE
AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM,
DAMAGES OR OTHER
LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR
OTHERWISE, ARISING FROM,
OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR
OTHER DEALINGS IN
THE SOFTWARE.

CONNECT **MUTE/TEMPO** **OSCILLATOR** **CUSTOM FADER** **USER DEFINED BUTTONS** **PREFERENCE** **ABOUT**

SELECTED CH表示

SELECTED CH表示について

ツールバーエリアの各ボタンをタップするとパラメーターを調節する画面が開きます。



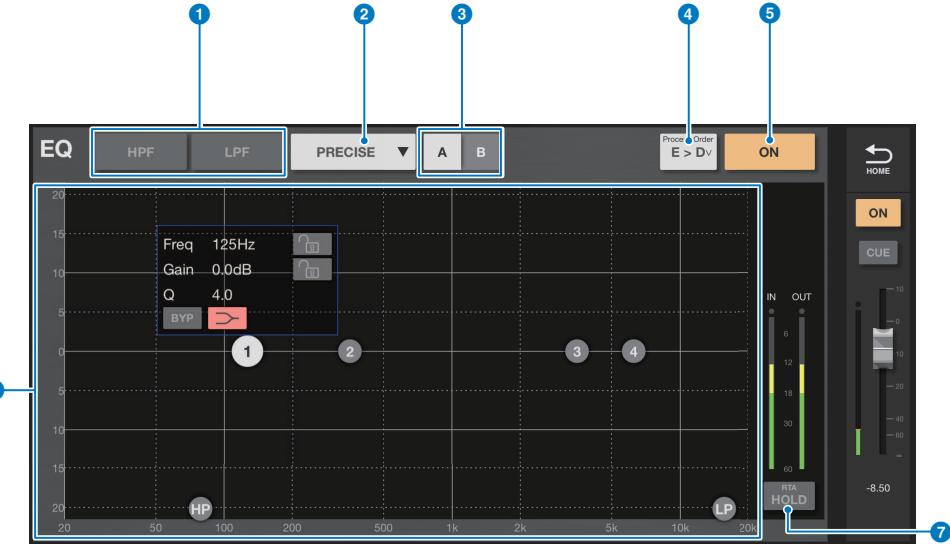
HOME画面のFADER表示でプロセッシングエリアをタップした場合も同様です。メーターエリアでは、選択したチャンネルだけが白枠で囲まれます。メーターエリアをドラッグして、選択チャンネルを変更できます。

SELECTED CH表示のときは、FADER MODE切り替えボタンがチャンネル切り替えボタンになります。



チャンネル切り替えボタンには、チャンネルID、ネーム、アイコン、カラーが表示されます。クリック操作や</>ボタンで対象チャンネルを切り替えできます。

EQ画面



① HPF/LPFボタン

タップしてハイパスフィルター、ローパスフィルターのオン/オフを切り替えます。オンのときは点灯します。

② EQタイプ選択

タップしてEQタイプを選択します。タイプによって周波数特性カーブが異なります。タイプごとにグラフ外枠の一部の色が変わります。

- PRECISE : 灰色
- SMOOTH : 青色
- AGGRESSIVE : 赤色
- LEGACY : 黒色

③ A/B切り替えボタン

EQのパラメーターの保存先のA/Bを切り替えます。

④ Process Order切り替えボタン

エフェクトの順番を切り替えます。

⑤ EQ ON/OFFボタン

タップしてEQのオン/オフを切り替えます。オンのときは点灯します。

⑥ EQグラフ

EQやフィルターのパラメーターの設定値が表示されます。各バンドの周波数やゲインなどの変更に従って、特性カーブが変化します。カーブ上のハンドルをドラッグして設定を変更します。フィルタータイプがベルタイプのとき、EQタイプがPRECISEのSHELFタイプのときは、グラフ上のカーブをピンチしてQの値を変更できます。選択中のバンドのパラメーター情報がポップアップでハンドルの上側に表示されます。



ポップアップにあるBypassボタンでバイパスのオン/オフが、Shelfボタンでシェルビングのオン/オフが、それぞれ切り替えできます。Lockボタンをオンにすると、設定している周波数やゲインを固定してハンドルをドラッグできます。ハンドルをダブルタップすると、EQのゲインが初期設定に戻ります。

グラフの0dB以下でパラメーターのない場所をタップすると、RTAや鍵盤が表示されます。音域と周波数の関係を把握するのに便利です。はじめてEQ画面を開いたときは、RTA表示のためにiPadのマイクを使用するかどうかの確認ダイアログが表示されます。

「許可しない」をタップすると、それ以降はRTAが表示されません。RTAを表示したい場合は、iOSのSettings→Privacy→Microphone画面で、StageMixをオンにしてください。

お知らせ

表示されるRTAは、iPadのマイクからの入力音を解析します。

⑦ RTA HOLDボタン

オンになるとRTA表示内でピーク値を表示します。表示のしかたはPREFERENCE画面の「Peak Hold Mode」の設定に従います。RTA表示がオフのときは、グレー表示になり無効になります。

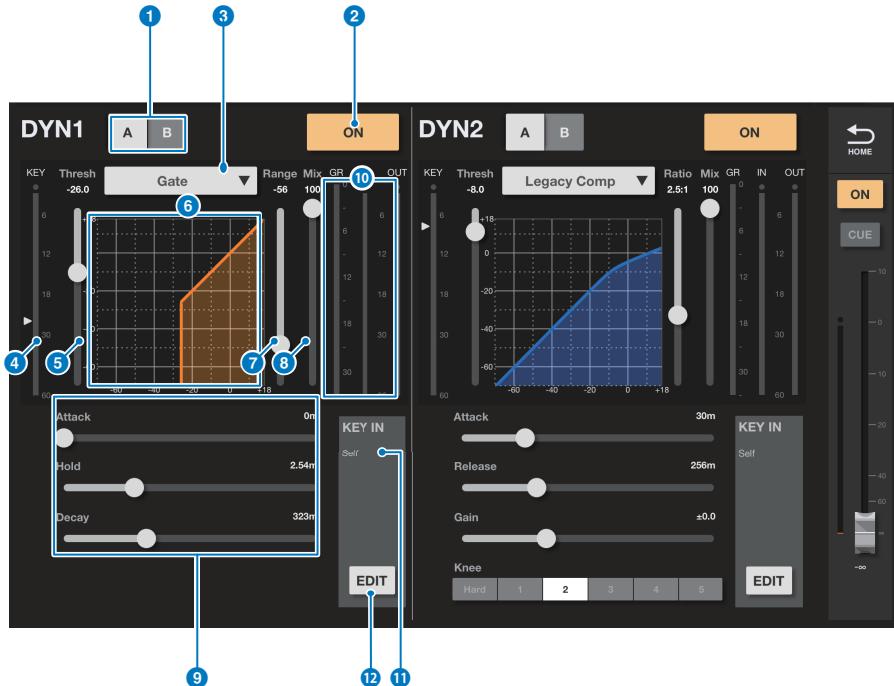
EQ画面のメニュー

EQ画面では、次のコンテキストメニューが用意されています。

- **Copy :**
選択しているチャンネルのEQのパラメーターをコピーバッファーに格納します。
- **Paste :**
コピーバッファーに格納されているEQのパラメーターを、選択しているチャンネルにペーストします。
- **Compare :**
選択しているチャンネルのEQのパラメーターと、コピーバッファーに格納されているEQのパラメーターを切り替えて比較します。
- **Gain Flat :**
選択しているチャンネルのEQゲインをフラットに設定します。
- **Default :**
EQの設定を初期状態に設定します。

DYN画面

DYN1とDYN2の2系統を表示します。アウトプットチャンネルではDYN1のみ表示されます。



- ① A/B切り替えボタン**
ダイナミクスのパラメーターの保存先のA/Bを切り替えます。
- ② DYN ON/OFFボタン**
タップしてダイナミクスのオン/オフを切り替えます。オンのときは点灯します。
- ③ ダイナミクスタイル切り替えボタン**
ダイナミクスのスタイルをLEGACY COMP、COMP260、GATE、DE-ESSER、EXPANDER、DUCKING、FET Limiter（インプットチャンネルのDYN2とアウトプットチャンネルのDYN1のみ）、Diode Bridge Comp（インプットチャンネルのDYN2とアウトプットチャンネルのDYN1のみ）に切り替えます。
- ④ KEY INレベルメーター**
KEY INレベルを表示します。KEY INフィルターのスレッシュホールドを示す△マークがつきます。
KEY INソースがペアの場合は、L/Rのうち大きい値を表示します。
- ⑤ Thresholdスライダー**
ダイナミクスのスレッシュホールドを設定します。

⑥ グラフ表示

入出力特性を表示します。

⑦ Rangeスライダー

GATE/DUCKINGの効果がかかっているときの減衰量を設定します。

⑧ Mixスライダー

ミックスバランスを調節します。

⑨ ダイナミクスパラメーター設定スライダー

ダイナミクスのパラメーターの設定値が表示されます。パラメーターの種類は現在選ばれているタイプに応じて異なります。

- Legacy Comp、COMP260、Expanderの場合

Threshold, Ratio、Attack、Release、Outgain、Knee

- Gate、Duckingの場合

Threshold, Range、Attack、Hold、Decay

- De-Esserの場合

Threshold, Frequency、Type、Q

- FET Limiterの場合

INPUT, OUTPUT, RATIO、ATTACK、RELEASE、In To Out Link

- Diode Bridge Compの場合

Threshold, Ratio, Gain, Recovery

⑩ GRメーター

ゲインリダクションの量を表示します。

INPUTレベルメーター/OUTPUTレベルメーター

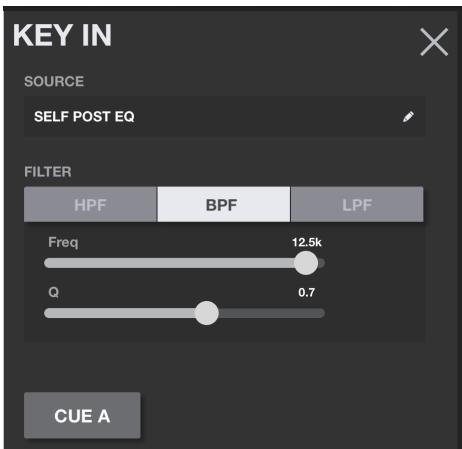
ダイナミクスの前段と後段のピークレベルを表示します。

⑪ KEY IN SOURCE表示

現在選択されているKEY IN SOURCEを表示します。DE-ESSERのときはSELF固定となります。

⑫ KEY IN EDITボタン

タップするとKEY IN FILTERの編集画面が表示されます。



- フィルタータイプボタン

HPF、BPF、LPFをタップして切り替えます。点灯しているボタンをタップするとオフになります。

- FREQUENCYスライダー

フィルタータイプがオンのときに表示されます。フィルターの周波数を設定します。

- Qスライダー

BPFがオンのときに表示されます。フィルターのQを設定します。

- CUEボタン

タップしてCUEのオン/オフを切り替えます。DYN画面を閉じるとCUEが自動的にオフになります。

- ソース表示

現在設定されているKEY IN SOURCEを表示します。タップするとソース選択画面が表示されます。

ソース選択画面

KEY IN SOURCEを選択します。選択したソースによって追加項目が表示されます。

SELFを選択した場合

追加項目は表示されません。

Other Pre DYN1を選択した場合、Mix Outを選択した場合、External INを選択した場合

チャンネルの一覧からKEY IN SOURCEを選択します。

DYN画面のメニュー

DYN画面では、次のコンテキストメニューが用意されています。

- **Copy1 :**
DYN1のパラメーターをコピーバッファーに格納します。
- **Paste1 :**
コピーバッファーに格納されているDYN1のパラメーターをペーストします。
- **Compare1 :**
DYN1のパラメーターと、コピーバッファーに格納されているパラメーターを切り替え
て比較します。
- **Default1 :**
DYN1の設定を初期状態に設定します。
- **Copy2 :**
DYN2のパラメーターをコピーバッファーに格納します。
- **Paste2 :**
コピーバッファーに格納されているDYN2のパラメーターをペーストします。
- **Compare2 :**
DYN2のパラメーターと、コピーバッファーに格納されているパラメーターを切り替え
て比較します。
- **Default2 :**
DYN2の設定を初期状態に設定します。

INSERT画面

選択チャンネルにプラグイン、FX、GEQ/PEQがインサートされている場合に表示されます。

■ プラグイン、FX



① タイプ/インサートポイント表示

インサートされているプラグインやFXのタイプとインサートポイントを表示します。

② パラメータ表示

インサートされているプラグインやFXのパラメーターを表示します。

ノブや数値をダブルタップすると表示されるテンキーで値を変更できます。

③ BYPASSボタン

バイパスのオン/オフを切り替えます。オンのときは点灯します。

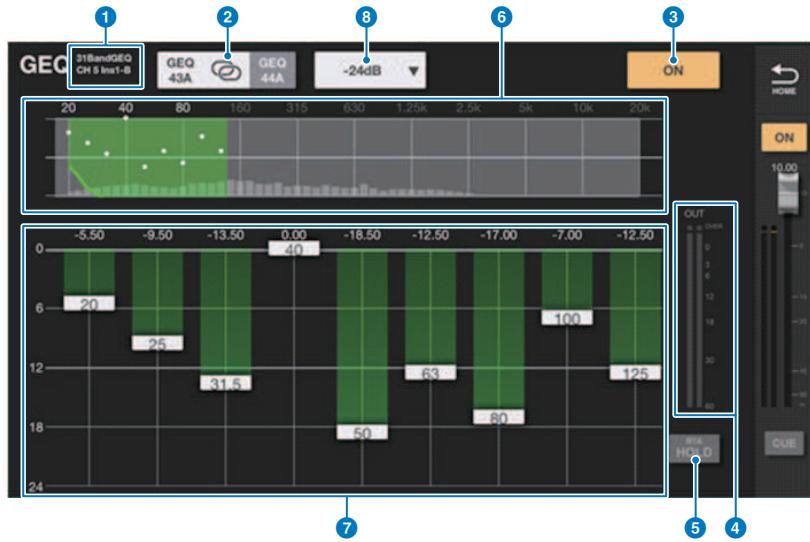
④ CUEボタン

CUEのオン/オフを切り替えます。オンのときは点灯します。

⑤ レベルメーター

プラグインやFXの前段と後段のピークレベルを表示します。

■ GEQ



① タイプ/インサートポイント表示

インサートされているGEQ/PEQのタイプとインサートポイントを表示します。

② L/R Linkボタン

ステレオペアになっているチャンネルに、31bandGEQで奇数A-偶数AのGEQ RACKまたは1対のFlex15GEQやPEQが、A/Bでインサートされているときに表示されます。タップすると、LとRが交互に切り替わります。真ん中のLINKボタンをタップすると、タップしたときに選択されているチャンネルの設定が親となって、選択していないチャンネルに反映されます。

③ GEQ/PEQ ON/OFFボタン

GEQ/PEQのオン/オフを切り替えます。オンのときは点灯します。

④ レベルメーター

GEQ/PEQ後段のピークレベルを表示します。

⑤ RTA HOLDボタン

オンにするとピークホールドを赤色でRTAに重ねて表示します。表示のしかたはPREFERENCE画面の「Peak Hold Mode」の設定に従います。

⑥ OVERVIEWエリア

GEQ全体の周波数特性を表示します。EQグラフで表示している範囲を緑色で表示します。タップすると、タップした場所の周波数を中心にEQグラフに展開されます。

⑦ EQグラフ

ハンドルを上下にドラッグして、各帯域のゲインを調節します。ハンドルをダブルタップするとゲインが0dBになります。ハンドル以外の場所を横にスワイプすると、表示する周波数帯域をスクロールできます。Flex15 GEQの場合は、使用できるバンド数がAvailable BandsとしてLIMITボタンの横に表示されます。

⑧ LIMITボタン

ゲインの可変幅を±15dB、±12dB、±6dB(ブースト/カット両方向)、-24dB(カット方向のみ)から選択します。

■PEQ



PEQでは、8バンドの帯域を設定できます。そのうちBand1とBand8にシェルビングを設定できます。8バンドに加えてノッチフィルターを4つ設定できます。画面下側の逆三角形のハンドルで操作します。ハンドルをタップすると、ノッチフィルターの周波数、Q、オン/オフがポップアップで表示されます。ハンドルを左右にドラッグして周波数を操作します。ONボタンを押すとノッチフィルターがオンになります。ピンチ操作でQを設定します。

INSERT画面のメニュー

INSERT画面では、次のコンテキストメニューが用意されています。

- **Copy :**

選択しているチャンネルのINSERTのパラメーターをコピーバッファーに格納します。

- **Paste :**

コピーバッファーに格納されているINSERTのパラメーターを、選択しているチャンネルにペーストします。

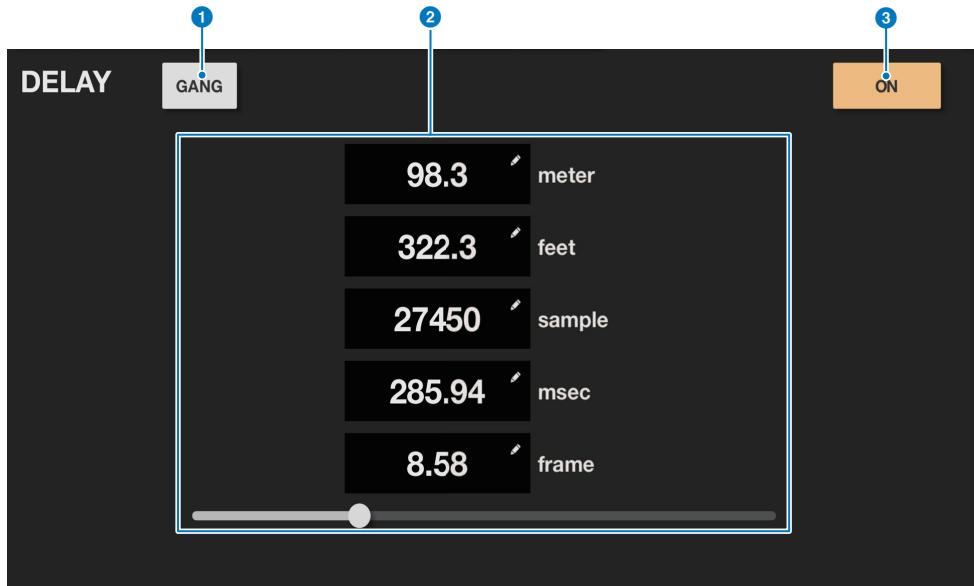
- **Compare :**

選択しているチャンネルのINSERTのパラメーターと、コピーバッファーに格納されているGEQのパラメーターを切り替えて比較します。

- **Default :**

INSERTの設定を初期状態に設定します。

DELAY画面



この画面に含まれる項目は以下のとおりです。

① GANGボタン

チャンネルペア設定すると表示されるボタンです。オンにすると、ディレイタイムの値の差分を保って連動します。

② ディレイ設定

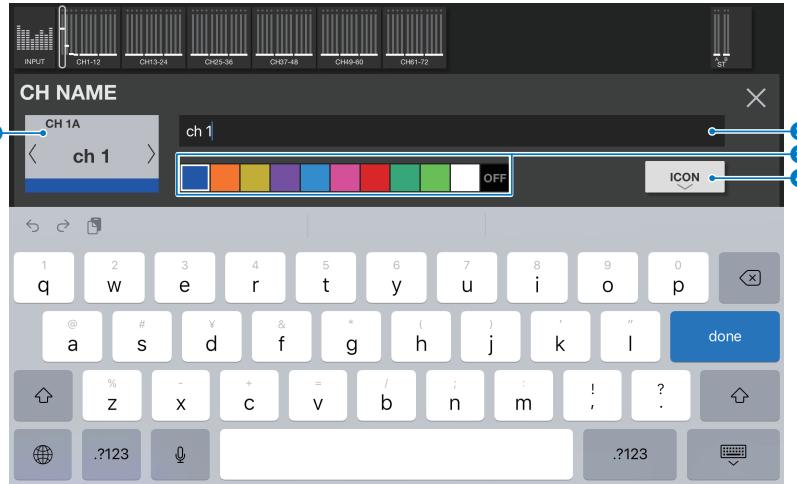
チャンネルのディレイの設定値を表示します。スライダーまたはタップすると表示されるテンキーで値を変更できます。

③ DELAY ONボタン

ディレイのオン/オフを切り替えます。

CH NAME画面

チャンネル名に表示する名前、アイコン、チャンネルカラーを設定します。



① チャンネル切り替えボタン

表示するチャンネルを切り替えます。

② チャンネルネームエディットボックス

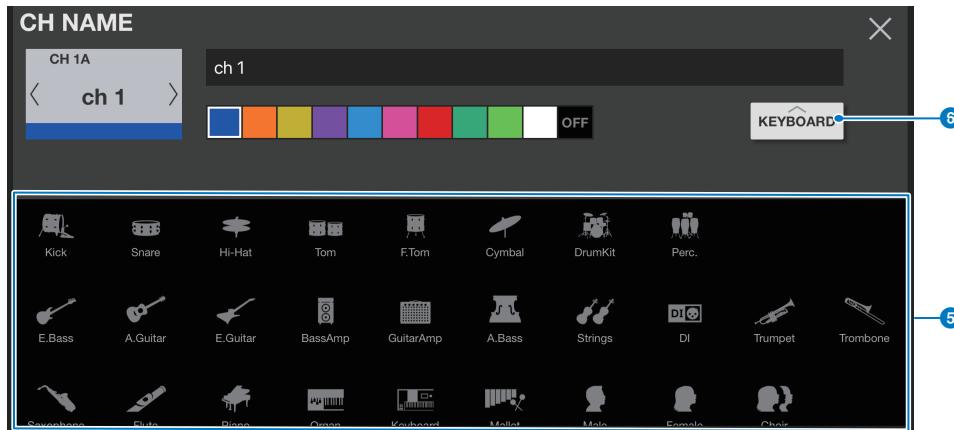
タップするとiOSのソフトキーボードが表示されます。文字を入力するとすぐに反映されます。ASCII表示文字のみ8文字まで入力できます。キーボードのDoneをタップすると、CH NAME画面が閉じてHOME画面に戻ります。

③ チャンネルカラー選択ボタン

チャンネルカラーを選びます。押すとすぐに変更が反映されます。右端のボタン(OFF)を選ぶとカラーとアイコンがグレーアウトします。

④ ON(KEYBOARD)ボタン

タップするとICONエリアが表示されます。



⑤ アイコン選択ボタン

チャンネルアイコンを選びます。押すとすぐに変更が反映されます。

⑥ KEYBOARD (ICON)ボタン

タップするとKEYBOARDエリアが表示されます。



この画面に含まれる項目は以下のとおりです。

① カテゴリー選択タブ

ラックにマウントするプラグインのカテゴリーを選択します。

② PLUG-IN選択ボタン

マウントするプラグインを選択します。押すと該当するプラグイン画面が開きます。

困ったときは

困ったときは

WAP/ルーターのDHCPサーバーセットアップ

- 1 ウェブのブラウザを使って、WAP（ワイヤレスアクセスポイント）またはルーターのウェブ設定ページにアクセスします。
- 2 DHCPサーバーを有効にします。
- 3 DHCPサーバーがアサインできるIPアドレスの範囲を設定します。
- 4 コンソールのIPアドレスが範囲外であることを確認します。もし範囲内の場合は、IPアドレスを入れ替えてください。
(例: DM7シリーズのIPアドレスが192.168.1.2のときには、DHCPの範囲を192.168.1.3～192.168.1.128などにする)

お知らせ

すべてのWAPがDHCPサーバーに対応しているわけではありません。この場合、固定IPアドレスを使って、iPadをセットアップしてください。

SELECT MIXIER画面でDM7シリーズが検出されない場合

アクセスポイントでIGMPスヌーピングが有効になっていると機器を正しく検出できないことがあります。IGMPスヌーピングをオフにしてお試しください。

Wi-Fi機器のファームウェアの更新をお試しください。

「インターネットに接続できない」メッセージが出る場合

iPadは、Wi-Fiネットワークの選択時にインターネットへのアクセスを試みる場合があるため、Wi-Fi機器（アクセスポイント/ルーター）の設定によっては、「インターネットに接続できない」というメッセージがiPad画面に現れて、StageMixがDM7シリーズに接続できない場合があります。StageMixとDM7シリーズとの接続にインターネット接続は不要ですので、Wi-Fi機器を適切に設定することにより、このメッセージが出ないようにする必要があります。Wi-Fi機器の設定変更の方法は、「リダイレクト機能」を無効にするなどがありますが、詳細はWi-Fi機器メーカーにお問い合わせください。

4本以上のフェーダーを同時に動かすことができない場合

マルチタスク用ジェスチャがオンに設定されていると、StageMixで4本以上のフェーダーを同時に動かせないことがあります。StageMixを使用する場合は、マルチタスク用ジェスチャをオフに設定しておくことをおすすめします。

困ったときは>困ったときは

- 1 iPadで[設定]を押します。**
- 2 [一般] > [マルチタスク用ジェスチャ] > [オフ]に設定します。**

3本以上のフェーダーを同時に動かすことができない場合

アクセシビリティ機能内のズーム機能がオンに設定されていると、StageMixで3本以上のフェーダーを同時に動かすことができないことがあります。StageMixを使用する場合は、ズーム機能をオフに設定しておくことをおすすめします。

- 1 iPadで[設定]を押します。**
- 2 [一般] > [アクセシビリティ] > [ズーム機能] > [オフ]に設定します。**

RTAが表示されない場合

最初にEQ画面、GEQ画面、PEQ画面のいずれかを開いたときに、iPadのマイクを使用しない設定をすると、それ以降はRTAが表示されなくなります。RTAを表示したい場合は、iOSのSettings→Privacy→Microphone画面で、StageMixをオンにしてください。

動作が遅い場合

StageMixの動作が重くなったときは、Wi-Fi機器のIGMPスヌーピングを有効にしてください。

ヤマハ プロオーディオウェブサイト
<https://www.yamahaproaudio.com/>

ヤマハダウンロード
<https://download.yamaha.com/>